

人間関係シラバスに向けて

ー筑波大学留学教育センター開発の新テキストを材料にしてー

江村 裕文

要 旨

日本語教育の「コースデザイン」において必須の項目の一つとして教育の現場において何を教えるべきか、つまり「シラバス」をどういう観点からデザイン（設計）するか、という項目がある。すでに様々な理論的背景に基づいて以下のような「シラバス」が提案されている。

- A. 言語の構造あるいは使用の、言語形式を中心にした記述に基づくもの
- B. 言語行動の過程の記述に基づくもの
- C. 包括的に一連の言語行動のまとまりの記述に基づくもの

これに対して筆者がここで提案したいのは、これまでの「シラバス」では必ずしもふさわしく位置をあたえられてこなかったと思われる、そのコミュニケーションの参加者としての人間をその出発点として据え、そこでの人間関係を円滑にするための手段の一部として日本語の力すなわち言語能力を位置づけるという観点である。これを上に倣って枠づけるならば、

- D. ある人間関係を円滑にするために、そこでの目標行動を達成する一連の能力（コミュニケーション能力・言語能力を含む）の記述に基づくもの。

としての「人間関係シラバス」ということになる。

1. はじめに（研究の目的）

本稿では、日本語教育において何を指導項目とするかについて、以下のように、言語理論と異文化適応の2つの面から考えてみたい。

1. 1 言語理論の面から

ハリディ(1970)は、言語の機能として次の3つの機能をたてている。

- ① 観念作用的機能：言語が世界についての経験を伝達し、解釈する手段として機能する場合。
- ② 対人関係的機能：言語が話し手の態度の表出とか聞き手の態度や行動に対する影響力として機能する場合。
- ③ テキスト形成的機能：言語がテキストを形成する手段として機能する場合。

リーチ(1983)は、このハリディの機能分類にボバー(1972)の進化論的認識論による言語の機能を接収し整理することにより、みずからの『語用論』の位置づけを試みている。

次の表は、リーチ(1983)によって、リーチの文法と語用論がハリディやポバーの言語機能とどう対応するか、まとめたものである。

ハリディ(1970)		ポバー(1972)	リーチ(1983)
[1]	観念作用的機能 — <div>経験的機能 論理的機能</div>	記述的機能 論証的機能	文法
[2]	対人関係的機能 — <div></div>	表出的機能 信号的機能	語用論
[3]	テキスト形成的機能 [実現化機能]		

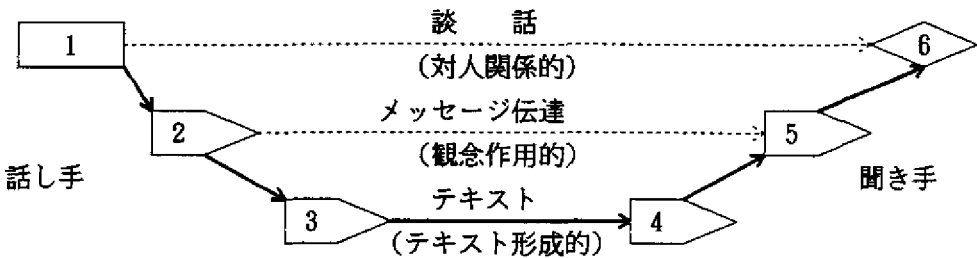
つまりリーチによると、言語の能力は大きく二つに分けて考えることができ、その一つは「文法的能力」で、もう一つは「語用論的能力」である。この「文法的能力」はハリディの「観念作用的機能」と関係があり、「経験的機能」と「論理的機能」からなる。これらはそれぞれポバーの「記述的機能」・「論証的機能」と対応する。

「語用論的能力」はハリディの「対人関係的機能」と「テキスト形成的機能」と関係がある。このうち「対人関係的機能」はポバーの「表出的機能」と「信号的機能」と関係がある。

デル・ハイムズがいうように、言語能力が「ある言語の全ての文法的文を作り出し、理解し、識別する能力」つまり「文法能力」と「人、場所、目的、その他のコミュニケーションの様式に関するその言語の使用の知識」つまり「コミュニケーション能力」とから成り立っているとすれば、この「文法能力」はリーチの「文法」つまり言語の「観念作用的機能」と対応し、「コミュニケーション能力」は「語用論」つまり「対人関係的機能」と「テキスト形成的機能」とに対応するとしてよいであろう (Dell Hymes (1977))。

リーチはハリディの三つの機能が実際のコミュニケーション活動における手段としての効用の点で次のような階層関係を構成しているとし、言語使用の最終目的を「談話」によって「対人関係的機能」を果たすことと規定している。

つまり、「テキスト」を手段としての「メッセージ」を手段としての「談話」が、特定の発話内効力を聞き手に伝えようとする試みという意味での取り引き全体ということである。そこで、言語研究の対象として、言語の対人関係的機能の解明が重要であるということになる。(1)



1. 2 異文化適応の面から

日本語および日本文化を母語・母文化として身につけているのではない人（以下この人を「外国人」と呼ぶ）が、日本という異言語・異文化社会の中でその人なりに生活ができるようになる、言い換えれば、「外国人」自身が、日本という自分が既に身につけているのとは異なる言語・文化の社会に対して違和感を抱かなくなるには、ある程度日本の言語や文化を習得し日本及び日本人に馴染むことが必要である。また同時に、これら「外国人」を受け入れる我々日本人の側も、「外国人」が日本になじんでいく過程におこるであろう彼らとの間の行き違いや誤解の可能性を過少評価することなく、できるかぎり対応の準備をしておくことが求められる。これら「外国人」に対しては、日本語を指導するだけでなく、日本文化や日本人、日本社会についてのある種の知識や情報を与えたり、また、カルチャー・ショックや異文化不適応の場合の処置も含めたケアの用意が必要だということもかなりあたりまえのこととして認識されるようになってきた。

けれども、問題を留学生に対する日本文化・日本事情等の指導に限っても、岡崎(1988)のように「指導の目指すところは、結果として獲得される日本文化の特色の把握という成果即ちプロダクトである。(略)プロダクトと並んで、過程そのものの経験、つまりプロセスが重要な目的とされる。」と、指導目的が異文化としての日本を理解することだとする意見もあれば、倉地(1988)のように「留学生に日本語や、日本事情、専門などに関する知識、技術を教えるというだけではなく、留学生が異文化との直接的な接触を通して、文化を積極的に深く理解しようとする態度や能力を獲得するよう導き、彼らが“真の”国際人として生きていくために必要な人間的能力を、総合的に形成すること」が指導の目的だとする意見もある。

いずれにせよ、「外国人」が日本のある特定の社会に属し、日本語を習得したり日本人の習慣等に慣れていくには、例えば文化人類学で「文化変容 (Acculturation)」といっているような過程とともに「文化化 (Enculturation)」と呼んでいるような過程をたどると考えられる。

1. 2. 1 異文化適応過程のモデル

1. 2. 1. 1 Adler のモデル

Adler (1975) は、「異文化の移行体験」を五つの体験的段階に分類し、それぞれの体験的要素においての認知面、感情面、行動面において生ずると思われる現象を説明し、解釈を加えている。Adler が示した段階は以下の通りである。

- ① 異文化との接触段階
- ② 崩壊の段階
- ③ 再統合の段階
- ④ 自律の段階
- ⑤ 独立の段階

1. 2. 1. 2 稲村のモデル

稲村(1980)は、異文化適応の時間的経過を以下の五つの段階に分類している。

- ① 移住期
- ② 不満期
- ③ 諦観期
- ④ 適応期
- ⑤ 望郷期

この段階の分類について稲村は「これらは、他の条件が同じなら一般に上の順序で経過するのであるが、途中で条件が変わると経過が乱れ、逆もどったり、一足飛びに次の段階に行くなどさまざまな変化をみせる。また、本人のおかれた状況や性格などによって、各時期の長さには個人差が非常に大きい。」と述べ、安易に段階の経過をとらえることを戒めている。

1. 2. 1. 3 岡崎のモデル

岡崎(1988)は、文化指導のアプローチとして、日本文化からのアプローチつまり日本に関する情報を獲得することというプロダクトを目指すアプローチと、学習者の母国文化からのアプローチつまり日本という異文化で遭遇する事態での経験その過程そのものというプロセスを目指すアプローチがあるとし、モデルとして「大学モデル」「感受性訓練モデル」を紹介し、この二つを統合した意味での「統合的認知経験モデル」による指導の重要性を指摘し、さらに、Sitaram (1976)などのプロセスとそのプロセスに裏打ちされたプロダクトを指導対象としたモデルを紹介し、それらをまとめて以下の基本的三段階を指導の骨格とすると述べている。(2)

- ① 母国文化及びその影響を受けた自己の理解
- ② 目標となる異文化つまり日本文化の理解
- ③ 異文化としての日本文化の経験、その観察と自己の思考、行動様式への統合

1. 2. 2 段階的モデルに対する批判

こうした段階的モデルという考え方そのものに対して異論がないわけではない。近藤(1981)はカルチャー・ショックについての議論で適応段階説について触れ、「これだけでは解明されない面がある。」とし、「一つの段階的体験から次へと移行する場合の要因となるものがなんであるか」また、「それぞれの段階においての体験的要素が、どのような原因によって生ずるか」ということを知ることができないと指摘し、「これらの移行の要因や体験の要因を理解するためには、個々のケースにおける個人的要素、とくに心理的側面を精神力動的に分析するアプローチに頼らなければならない」と述べている。つまり、体験の個人差の問題がこれらの段階説だけでは説明がつかないというわけである。

1. 2. 3 異文化適応のための「人間関係」把握について

もちろん、一般的な適応過程というものを段階づけることは設定しにくく、実際に存在し観察できるのは個々の適応過程であるのはまちがいないだろう。しかし、だからといって段階を設定することが無意味であるということにはならないだろう。

異文化適応過程における段階を考えるには、Adler・稲村・岡崎らが指摘しているように、「外国人」が与えられた環境つまり自分を取り巻く小さな日本人社会とどのような関係に入り、維持し、その関係をどのように広げていくか、また文化的相違に起因したトラブル等に対しどんな対応をするか、そのトラブルという機会をとらえて、自分なりの世界観をどう組み立てていくかが問題となるはずである。そこで、ここではまずその「外国人」が自分のおかれている日本人との「人間関係」をどう把握しているかが、一つのポイントとなるわけである。

2. 人間関係シラバス試案

以上、言語の本質にせまるにはその構造的側面のみならず、その運用面あるいは語用面ことに対する対人的な機能を射程にいれるべきだという点と、「外国人」にとって日本語が日本人との関係を円滑にしていくための手段として有効であるには、日本語の文法に関する知識のみならずその運用面を規制する、特に人間関係に基づく原理をいかに明確に提示するかが問題となるという点を指摘した。日本語教育の対象として何を指導すべきかという問いに対して答えるには、こうした視点に立って考えるべきであろう。ここで「人間関係シラバス」と呼んだのは、言語の構造的要素から出発してその表現機能を規定し、さらにその機能を果たすべき場面の構成要素として人間関係を考えるのではなく、全く反対に、ありうる人間関係においてどんな言語を含む行動がありうるのか、さらに、その行動を支えているのはどんな言語要素かという方向で「シラバス」を考えてみようとするからである。こうしたここでいうところの「人間関係シラバス」を設計するには、本来現実の日本語母語話者による言語行動の現場の詳細な記述と、その場面や話題等に関する話者の人間関係面でのスタイルの使い分け等を含むそれらに関する詳細なコメント等による広範な調査がなされるべきであろうが、これは現在の筆者の手にあまることなので、ここでは、留学生に対する日本語教育の「人間関係シラバス」の一実践例として、筆者が勤務する筑波大学留学生教育センター（以下「センター」と略称）で開発中の新テキストを材料に、このテキストで指導した学習者のアンケート等も勘案して考えてみたい。

2. 1 「センター」開発の新テキストについて

「センター」では、文部省研究留学生を対象とする6か月間約500時間の日本語予備教育のコースが設けられている。このコースの目的は、日常生活に必要な会話を身につけるにとどまらず、コース修了時に配置される大学において研究活動に必要な日本語力を要請することである。この前半約300時間のための初級教材として、同「センター」開発の文法シラバス中心の「きそにほんごかいわ」

が用いられていた。

田辺(1985)はこのテキストの会話文の分析から以下のような問題点を指摘した。

- ① 会話が行われている場所、対人関係、話題に偏りがあり、変化・多様性がない。
- ② 表現機能が「事実伝達機能」に集中し、「感情表現」や「他者への働きかけをするもの」が少ない。
- ③ 会話開始・終了の形式がパターン化している。
- ④ 相手の発話に対する反応の仕方にバリエーションがなく、「そうですか」が乱用されている。

この指摘を受けて、「センター」では以下のような基本方針で新テキスト作成が計画された(西村(1988))。

- ① 文法シラバスから場面・機能シラバスへ。
- ② 文型・文法導入の会話でなく、学習者と同世代の日本人が話す自然に近い会話。
- ③ 練習は、パターンプラクティスを離れ、コミュニケーション型練習やタスク型の練習も行う。

具体的な作業経過・手順等については記述を省略するが、1989年12月現在、試用版「New Situational Functional Japanese」3分冊が完成している。(3)

このテキストの各課の構成は以下の通りである。

OBJECTIVES

- I Model Conversation
- II Report
- III New Words and Expressions
- IV Grammar Notes
- V Structure Drills
- VI Conversation Notes
 - 〈General Information〉
 - 〈Strategies〉
- VII Conversation Drills
- VIII Tasks and Activities
- IX Kanji Words to Read

この構成で明らかなように、その課の目的は課の最初に提示され、その目的を具現した一つの例として「モデル会話」が提示され、その「モデル会話」を実現するための様々な技能・能力を学習するための解説や練習が以下に続いている。言い換えれば、ⅡからⅨは「モデル会話」に示された言語を使った行動を達成するための要素の理解・生成の訓練であり、これらに熟達すれば「モデル会話」は実行できる、という前提があるわけである。そこで、「モデル会話」を、「モデル会話」を

成立させている諸条件、とりわけ人間関係の面を中心に分析すれば、このテキストを支えている「人間関係シラバス」を明らかにすることができるわけである。

2. 2 モデル会話の人間関係及び機能の分析

ここでは文化庁(1988)にしたがって、人間関係を以下のように2つに分けた。

〔A〕 行きずりの人間関係

〔B〕 半恒久的な人間関係

ここで「行きずりの人間関係」というのは、その相手とのコミュニケーション関係がいわばその場限りで、最悪の場合、何らかのコミュニケーション上の失敗でその相手との関係が断絶状態になったとしても、原則として別にあとあとまでその結果が影響を及ぼすことがないような関係のことであり、「半恒久的な人間関係」というのは、関係がその場限りとは限らず、かなり永い相互関係が前提となるような関係で、場合によってはコミュニケーション上の破綻が結果として当事者の生活そのものに関わってくる可能性があるような関係のことである。

文化庁(1988)には、表現意図の名づけとして「行動場面機能分類試案」があり、それをもとにした機能一覧が日本語教育学会(1989)にあげてある。この表を、これらの機能を果たすことができるような能力を考え、例えば「行為の依頼」を「行為の依頼ができる」というように、機能に「～ができる」として読み換えれば「行動能力」の一覧表と見ることもできる。ところで、この表はその成立過程から考えても、上にあげた〔A〕の人間関係内での機能であって発話全般に関するものではない、つまり、〔B〕に関わる機能については扱われていないということを忘れてはならない。

「センター」のモデル会話に見られる人間関係の設定と、そこで扱われている言語能力を含む行動能力は以下の通りである(右端の数字は扱っている課)。

〔A〕 行きずりの人間関係

a. 初対面の人との関係

ア 「簡単な自己紹介ができる」 (1)

イ 「物の場所を聞くことができる」 (4)

ウ 「わからないことを聞くことができる」 (5)

エ 「道を尋ねることができる」 (12)

オ 「間違い電話をかけたとき対処できる」 (18)

b. ある組織に属している人との関係

ア 郵便局の局員「郵便局で手紙を出しハガキを買うことができる」 (2)

イ レストランのウェイトレス「注文することができる」 (3)

ウ 事務室の事務員「荷物を受け取ることができる」 (6)

エ 病院の受付「予約することができる」 (7)

オ 病院の受付・医者「診察を受けることができる」 (9)

カ デパートの店員「買物することができる」 (10)

キ 本屋の店員「本を注文することができる」 (11)

ク バス会社の職員「忘れ物をしたことを届けることができる」 (14)

ケ タクシー会社の職員「タクシーを呼ぶことができる」 (16)

{ B } 半恒久的な人間関係

c. 友人との関係

ア 「突然出会ったとき、親しさを確認することができる」 (2)

イ 「わからないことがあったとき、気軽に尋ねることができる」 (7)

ウ 「相談したいことがあったとき、気軽に相談することができる」 (16)

エ 「趣味等について、情報を交換することができる」 (20)

オ 「何か頼まれたときに、相手との関係と自分の予定に基づいて、よりよい方向での解決ができる」 (23)

d. 先輩（後輩）との関係

ア 「物品や情報を提供することができる」

イ 「物品や情報を提供してもらったとき、対処できる」 (13)

ウ 「相談を受けたとき、相談にのることができる」

エ 「相手の力量に応じて、相談をもちかけることができる」 (15)

オ 「(音楽会に誘う等の) より緊密になる関係をつくるための機会を提供することができる」

カ 「より親密になる機会が提供されたときに、相手との人間関係をどう考えているかという判断に基づいて、対処することができる」 (17)

キ 「相手に不幸があったとき、相手との関係に応じて、(お見舞いする等の) 対処をすることができる」 (22)

ク 「自分の緊急の度合・相手との関係・相手の予定の具合等に応じて、依頼することができる」

ケ 「相手との関係・自分の予定の具合に応じて、依頼に対処することができる」 (23)

e. (先生・先生の奥さん等) 目上の人との関係

ア 「目上の人に丁寧に依頼することができる」 (8)

イ 「目上の人に電話をかけ、面会のアポイントメントを取ることができる」 (18)

ウ 「失礼なく目上の人を訪ねることができる」 (19)

f. 近所の人との関係

ア 「近所の人に(あとあと関係がこじれないような方法で) 苦情を言うことができる」

イ 「大家さんなり近所の人から(ゴミの出し方等について) 注意されたときに、感じよく対処できる」 (21)

3. 調査の概要

2. 2であげた各課のモデル会話に具現されていた各人間関係における各行動能力が学習者にとってどう把握されているかを明らかにするため、このテキストで指導を受けた学生を対象に、人間関係を円滑にするためのコミュニケーションの手段としてどんな行動能力が必要だ、何が不可欠だ、何が不要だと考えているのか、という観点でアンケートを行った。つぎに、このアンケートの集計結果と、コース中に定期的に行ったクイズのインタビューの結果から、学習者のある人間関係における行動能力の評価と結果的な達成度との間に相関関係が見られるかをまとめてみた。ここでは、学習者がある人間関係における行動能力に高い評価を与えている場合、その学習者にとってその指導項目に対する動機が高く、その成績としての達成度もまたそれに応じて高いという結果になると考えられるという前提がある。

3. 1 調査対象

1989年春コースの学生19名のうち、新しいテキストで学習した学生17名にアンケートに回答するよう依頼し、結果として10名分の回答が回収できた。

学生の個人データは以下の通りである。

	国 籍	歳	目的	滞在予定	日本語学習歴	テキスト
A	インド	30	研究	2 年	ゼロ	
B	タイ	27	研究	4 年	ゼロ	
C	トルコ	26	研究	2 年	ゼロ	
D	イスラエル	29	研究	2 年	5 0 0 時間	
E	サウジアラビア	27	Ph.D	3 - 4 年	ゼロ	
F	モロッコ	33	研究	2 年	2 0 時間	
G	ギリシャ	26	Ph.D	2 年	1 年半	長沼・J. for Tomorrow
H	ソ連	35	研究	2 年	ゼロ	
I	インドネシア	29	研究	2 年半	5 0 0 時間	日本語初歩
J	チリ	26	Ph.D	1 年半	ゼロ	

3. 2 調査内容

3. 2. 1 アンケート調査について

2. 2. であげた〔A〕〔B〕それぞれの人間関係における行動能力について、「日本語を学ぶことによって日本人との人間関係をより円滑なものにする」という観点から、その人間関係においてその行動能力が不可欠と考えられるほど重要だと思われる場合は〔5〕、あるにこしたことはないがそれほど重要とは思われない場合は〔1〕とし、その重要度によって、〔5～1〕の連続したスケールで評価してもらった。さらに、その人間関係における行動能力のたて方自体、また、習慣やマナー、価値観等が、日本でやり方と学生の国ないし文化でのやり方と異なっている場合は、そこで提示されている日本式のやり方とどう異なっているのか等についてもコメントを書いてもらった。

なおその際、新テキストでは扱っていないような行動能力も「その他の行動能力」としてあげ、その必要度も同様に評価してもらった。ここでの「その他の行動能力」は主に日本語教育学会(1989)の「日本語学習についての調査表」での項目を各人間関係に振り分けた。例えばa. の「その他の行動能力」には次のようなものがある。

カ 「時間を尋ねることができる」(この項目はモデル会話には出てこないが、ドリルで扱われている)

キ 「電車・バスの乗り換えをすることができる」

ク 「困ったとき(物を盗まれたり落とし物をしたとき等)に助けを求めることができる」

b. の「その他の行動能力」には次のようなものがある。

コ ホテルの職員「予約をして、旅行することができる」

サ 役所の職員「必要な手続きをすることができる」

シ 電気・水道等の会社の職員「電気・水道・トイレ等の修理を頼むことができる」

ス 不動産屋「アパートを探し、契約・引っ越し等ができる」

セ 入国管理局の職員「出入国、ビザの延長等に関する話をする事ができる」

ソ 職業安定所の職員「仕事を探すことができる」

c. の「その他の行動能力」には次のようなものがある。

カ 「パーティーに参加することができる」

キ 「日本あるいは自分の国について話すことができる」

ク 「ディスカッションをすることができる」

(※ 具体的なアンケート内容については資料の「アンケート用紙」を参照されたい。)

3. 2. 2 クイズのインタビューについて

「センター」で新テキストを使用の際、4課が終わるごとにまとめのクイズを行っている。クイズはペーパーのテストと口頭で行うインタビューとからなる。ペーパーで評価されるのは主に文法

に関する知識であるが、これでは行動能力に結びついた日本語の言語能力ははっきりと表れない(文法的知識があるということとそれを具体的な場面で実践できるということとは別問題である)ため、インタビューでは学生に状況を与えて、ある「場面」でどういう言語行動をするかをより現実の「場面」での行動に近い形で確認しようとしている。ここではインタビューでの評価を参照することにした。

以下にインタビューの内容をあげる。

【クイズ1】(第1課～第4課)

- A. レストランでメニューを見て注文する
- B. 地図を使って道聞きする

【クイズ2】(第5課～第8課)

- A 1. わからないことを聞く
- A 2. はんこを押す
- B. 歯医者に電話してやっている時間を聞く
- C. 先生に東京へ行く許可を求める

【クイズ3】(第9課～第12課)

- A. 道の説明をする
- B. 医者に症状を訴える
- C. 本屋で注文する

【クイズ4】(第13課～第16課)

- A. 遅刻したことを詫げる
- B. 忘れ物を探す
- C. 先生と久しぶりに会ったときに話す

【クイズ5】(第17課～第20課)

- A. 映画に誘う
- B. 先生の家電話をかけて伝言を頼む

【クイズ6】(第21課～第23課)

- A. 先生の頼みを断る
- B. 病院で見舞う

4. 調査結果

4. 1 アンケートとインタビューの結果について

2. 2であげた人間関係における行動能力のうち、クイズのインタビューで達成度を評価した項目を以下にあげる。但し、人間関係が問題になるのは〔A〕「行きずりの人間関係」よりも〔B〕「半

恒久的な人間関係」のほうであるので、ここ以降、〔A〕に関わる項目は省略し、〔B〕に関わる項目のみを問題にする。

人間関係とそこでの行動能力	クイズのインタビューでの項目
c. ア 突然出会ったとき、親しさを確認することができる	4. C 久しぶりに会ったときに話す
d. オ より親密になる関係をつくるための機会を提供することができる	5. A 映画に誘う
d. キ 相手に不幸があったとき、対処することができる	6. B 病院で見舞う
d. ケ 状況に応じて、依頼に対処することができる	6. A 先生の頼みを断る
e. ア 目上の人に丁寧に依頼をすることができる	2. C 先生に東京へ行く許可を求める
e. イ 目上の人に電話をかけることができる	5. B 先生の家電話をかけて伝言を頼む

次に、A～Jの各学習者のアンケート回答から、各行動能力に対する重要度の評価とインタビューでの達成度との対照表をあげる。係数というのは「達成度／重要度」で「1」より大きいと学習者の重要度の評価より達成度が高いことを表し、「1」より小さいと学習者の重要度に比べて達成度が低いことを表している。

この表で、例えばAやCは、全般的に行動能力の重要度にあまり高い評価を与えていないが、それに比べると達成度が高いといえる（平均係数が〔1〕以上である）。DやEは項目によって重要度を低く評価してしながら達成度が高いものがある。その他の学習者係数が〔1〕以下である。ということは、重要度は高く評価しているがそれに比べると達成度が低いということを表している。

4. 2 アンケートのコメントについて

アンケートの各項目について様々なコメントがあったが、学習者の国や文化でのやり方と日本式のやり方の違いについて書かれたもののうちいくつかを以下にあげておきたい。

〔A〕

b. キ 本屋の店員「本を注文することができる」

」のコメント「我々はそんなによくは本を注文しないし、やり方も違う」

b. ク バス会社の職員「忘れ物をしたことを届けることができる」

」のコメント「届けることはできるが、たいていの場合誰かが持って行ってしまう」

b. ケ タクシー会社の職員「タクシーを呼ぶことができる」

		c. ア	d. オ	d. キ	d. ケ	e. ア	e. イ	
A	重要度	1	3	4	3	2	2	15/30
	達成度	3/6	8/10	8/10	7/10	4/6	4/10	34/52
	係 数	2.5	1.3	1.0	1.2	1.7	1.0	1.31
B	重要度	5	4	5	5	5	4	28/30
	達成度	4/6	8/10	9/10	9/10	0/6	7/10	37/52
	係 数	0.7	1.0	0.9	0.9	0	0.9	0.76
C	重要度	3	3	5	4	3	1	19/30
	達成度	5/6	6/10	8/10	7/10	3/6	10/10	39/52
	係 数	1.4	1.0	0.8	0.9	0.8	5	1.18
D	重要度	4	4	3	4	4	4	23/30
	達成度	5/6	7/10	8/10	7/10	1/6	7/10	35/52
	係 数	1.0	0.9	1.3	0.9	0.3	0.9	0.88
E	重要度	3	3	2	4	5	5	22/30
	達成度	4/6	4/10	5/10	8/10	2/6	6/10	29/52
	係 数	1.1	0.7	1.3	1.0	0.3	0.6	0.76
F	重要度	5	5	5	5	5	5	30/30
	達成度	6/6	5/10	8/10	8/10	3/6	4/10	34/52
	係 数	1.0	0.5	0.8	0.8	0.5	0.4	0.65
G	重要度	5	5	5	5	5	5	30/30
	達成度	2/6	7/10	6/10	7/10	6/6	10/10	38/52
	係 数	0.3	0.7	0.6	0.7	1.0	1.0	0.73
H	重要度	5	5	5	5	5	5	30/30
	達成度	4/6	5/10	6/10	6/10	3/6	8/10	32/52
	係 数	0.6	0.5	0.6	0.6	0.5	0.8	0.62
I	重要度	5	5	5	5	5	5	30/30
	達成度	3/6	9/10	9/10	9/10	4/6	5/10	39/52
	係 数	0.5	0.9	0.9	0.9	0.7	0.5	0.75
J	重要度	5	5	5	5	5	5	30/30
	達成度	3/6	4/10	8/10	7/10	0/6	4/10	26/52
	係 数	0.5	0.4	0.8	0.7	0	0.4	0.50

Bのコメント「私の国では電話でタクシーを呼ぶことはない。電話でタクシーを呼ぶようなサービスはない」

〔B〕

c. エ 「趣味等について、情報を交換しあうことができる」

Jのコメント「このようなことについて我々はあまり話さない」

e. ウ 「失礼なく目上の人を訪ねることができる」

Jのコメント「招待されたときだけ」

その他、Fのコメントとして、日本に着いたときにはいろいろトラブルがある可能性があるので「初めて日本に来たときには、トラブルをおこさないように、すぐにそのような状況についてどう考えるべきかという指導を行うべきである」と自らの体験を詳しく説明して書いてくれた。

5. まとめ（シラバスの面から）

日本語教育シラバス研究会(1987)に、J S P (Japanese for specific Purposes) のためのシラバスはどうあるべきかという観点から主な教授法とそれに対応するシラバスが紹介され解説されている。そこではシラバスは次のようにまとめられている。

- A. 言語の構造あるいは使用の、言語形式を中心にした記述に基づくもの。

構造的シラバス、概念（機能）シラバス

- B. 言語行動の過程の記述に基づくもの。

技能シラバス、課題遂行シラバス、インターアクションシラバス

- C. 包括的に一連の言語行動のまとまりの記述に基づくもの。

活動シラバス、主題シラバス、場面シラバス

ここでは、ある人間関係をより円滑にするための手段の一つあるいは一部として言語としての日本語を位置づけた。より具体的には、ある人間関係における目標行動をより支障なく達成するための能力（これをコミュニケーション能力とでもいいだろう）の一部として言語能力を考えたわけである。これを図で表すと以下の様になる。

円滑にすべき人間関係	そのための行動能力	それを支える言語能力 (文法・語彙等)
－具体的項目－ _____ _____	－具体的項目－ _____ _____	－具体的項目－ _____ _____

3. の調査では、4. の調査結果からわかるように、学習者が評価している人間関係における目標行動の重要度と、達成度との間に顕著な相関関係は見られなかった。この理由として以下のようなことが考えられるだろう。

① 学習者の側の問題

学習者自身、人間関係を円滑にするための行動能力があり、その能力の一部として言語能力を位置づけることができるという発想をどれだけ理解していたか。

② 教師の側の問題

テキスト自体はここで述べてきたような目的の方向に近いものであったとしても、毎日毎時間そのクラスを担当する個々の教師が、この目的、つまり、センテンスの提示なりドリルでの訓練なりは最終的に何の目的なのか、をどこまで把握し、具体的に学習者に徹底していたか。

③ 教材の面での問題

テキスト自体はアイデアや目指す目的はかなりはっきりと提示していたとしても、それを毎日毎時間の授業の中でどう具現化していくか、という方法が未開発で、テキストを補助すべき教材がど

こまで整備されていたか。

以上述べてきたように、ここで提唱した「人間関係シラバス」は、言語理論的には言語の「対人関係的機能」を真正面から取扱い、「外国人」の日本文化適応に資する日本語教育でのシラバスのアイデアを、以上述べたこれまでに提唱されたシラバスに加えて、提案するものである。

これを先の〔A. B. C.〕に倣って粹づけするならば、

D. ある人間関係を円滑にするために、そこでの目標行動を達成する一連の能力の記述に基づくもの。

ということができらるだろう。

さらに、調査の結果によると、その実行にあたっては、構造としての日本語の指導というこれまでの枠を越えて、日本人との社会的関係を円滑にするために役立つ能力として日本語を位置づけるという発想自体を、何らかの方法で徹底すべきだということが指摘できる。

注

- (1) 談話のプラグマティックな分析の必要性は、1989年12月に津田塾会主催で行われたシンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」における西原の発表(1989)においても指摘されている。
- (2) 岡崎のモデルの実践例は、岡崎(1989a,1989b,1989c,1989d)等に具現化されている。
- (3) このテキストの文法面の取扱いに関しては、新テキスト作成に携わり、特に文法面での執筆を担当した「センター」の講師によって、コミュニケーション型指導法における文法指導はどうあるべきか、どういう可能性があるかという観点からの問題提起がある。市川(1989)参照。

文 献

Adler, Peter S. (1975) 'The transitional experience : An alternative view of culture shock' "Journal of Humanistic Psychology" 15- 4

Austin, J. L. (1960) "How to do Things with Words" Oxford Univ. Press.
(坂本百大訳 (1978)『言語と行為』大修館)

Bock, Philip K. (1974) "Modern Cultural Anthropology : an introduction"
(江淵一公訳(1977)『現代文化人類学入門』講談社学術文庫)

文化庁(1987)『日本人と外国人』(「ことば」シリーズ26)

文化庁(1988)『中国帰国者用日本語教育指導の手引』

江畑敬介・箕口雅博(代表者)(1989)『厚生省「中国帰国者適応状況検討会」事例研究班
中間報告書(昭和63年度調査研究分)』

Finocchiaro, M. & Brumfit, C. (1983) "The Functional-Notional Approach From Theory to Practice"
Oxford Univ. Press

Grice, P (1975) "Logic and Conversation"

Core & Morgan (eds) *Syntax and Semantics 3* : Speech Acts New York : Academic Press

原裕視(1986)「中国残留邦人とその家族 ―日本社会への適応上の諸問題―」
『教育と医学』慶応通信

原裕視(1987)「異文化適応におけるサイコロジストの役割 ―中国帰国者の場合―」
『心と社会』特集：精神障害者福祉と医療における心理臨床家(C. P.)の役割

原裕視(1989)「帰国者の日本社会への適応のために ―異文化適応の理解―」
文化庁平成元年度中国帰国者に対する日本語教育研究協議会資料

星野命(編)(1980)『カルチャー・ショック』現代のエスプリ161至文堂

星野命・斉藤耕二・菊池章夫(編)(1983)『異文化との出会い』川島書店

星野命・斉藤耕二・菊池章夫(編)(1987)『異文化とのかかわり』川島書店

Hymes, Dell (1974) "Foundations in sociolinguistics-An ethnographic approach" Tavistock Publications Limited

(唐須教光訳(1979)『ことばの民族誌』紀伊國屋書店)

稲村博(1980)『日本人の海外不適応』NHKブックス

稲村博(1984)『海外在住から帰国した邦人及び在日外国人の不適応現象とその対策に関する研究』
昭和56～58年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書

市川保子(1989)「コミュニケーション・アプローチの中での文法のあり方 ―新教科書作成を通して―」『日本語学』(1989.11.) vol. 8 明治書院

海外技術者研修協会(編)(1985)『発展途上国研修生の日本体験』草思社

近藤裕(1981)『カルチュア・ショックの心理』創元社

倉地暁美(1988)「中級学習者の日本語日本事情教育におけるグループ研究プロジェクトの試み」『日本語教育』66号 日本語教育学会

Leech, Geoffrey N. (1980) “Explorations in semantics and pragmatics” John Benjamins B. V.
(内田種臣・木下裕昭訳(1986)『意味論と語用論の現在』理想社)

Leech, Geoffrey N. (1983) “Principles of pragmatics” Longman.
(池上嘉彦・河上誓作訳(1987)『語用論』紀伊國屋書店)

南博(編)(1980)『日本人の人間関係事典』講談社

中津療子(1976)『異文化のはざまで 英語と日本人の周辺』毎日新聞社

直塚玲子(1980)『欧米人が沈黙するとき―異文化間のコミュニケーション―』大修館

ネウストブニー, J. V. (1987a)「日本人と外国人とのコミュニケーション」
『日本人と外国人』(「ことば」シリーズ26) 文化庁

Neustupny, J. V. (1987b) “Communicating with the Japanese” The Japan Times

ネウストブニー, J. V. (1989)「日本人のコミュニケーション行動と日本語教育」
『日本語教育』67号 日本語教育学会

日本語教育学会(1989)『日本語教育機関におけるコースデザインの方法とコース運営上の教師集団の役割の分担に関する研究 ―報告書―』

日本語教育シラバス研究会(1987)『専門学校進学希望外国人用日本語教育指導の手引(仮称)』

作成に関する調査研究 ―初年度中間報告書―

西田ひろ子(1989)『事例で見る日米コミュニケーション・ギャップ』大修館書店

西原鈴子(1989)「談話構成ストラテジーと教育―条件表現に含意される価値判断と発話行為」津田
塾会『日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」予稿集』

西村よしみ(1988)「伝達能力と言語能力―初級日本語教科書とCAIを中心に」
『日本語教育論集』第4号 筑波大学留学生教育センター

岡崎敏雄(1988)「日本語日本事情：異文化教育としての指導―方法論・カリキュラム・教材開発
論：文化論未確立の場合―」
『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』広島大学教育学部

岡崎敏雄(1989a)「異文化接触と日本語教育」
国立国語研究所平成元年度日本語教育夏期研修研修B資料

岡崎敏雄(1989b)「「文化」の定義への一つのアプローチ―異文化衝突の要因としての「期待」
を素材として―」国立国語研究所平成元年度日本語教育夏期研修資料

岡崎敏雄(1989c)「異文化教育としての日本文化の指導―コースデザインとそのためのオプショ
ン―」国立国語研究所平成元年度日本語教育夏期研修資料

岡崎敏雄(1989d)「異文化教育としての日本文化の指導―統合的認知経験モデルによる指導―」
国立国語研究所平成元年度日本語教育夏期研修資料

Searle, J. R. (1969) "Speech Acts, an Essay in the Philosophy of Language" Cambridge Univ.
Press.

(坂本百大・土屋俊訳(1986)『言語行為』 勁草書房)

Sitaram, K. S. (1976) "Foundations of Intercultural Communication"
Tokyo : Tokyo Sogensha

田中望・奥津令子・小田切由香子(1985)「Council of Europe の言語教育プログラム」

『日本語教育』55号 日本語教育学会

田中望(1987)「外国人日本語の世界」

『日本人と外国人』(「ことば」シリーズ26) 文化庁

田中望(1988)『日本語教育の方法 ―コース・デザインの実際―』大修館書店

田辺和子(1985)「『基礎日本語会話』の反省と初級会話教材のあり方」

『日本語論集』第1号 筑波大学留学生教育センター

東京学芸大学海外子女教育センター(編)(1986)『国際化時代の教育』創友社

戸村佳代(1988)「コミュニケーション・アプローチでの日本語教育における文法指導の一試案」『日本語教育論集』第4号 筑波大学留学生教育センター

筑波大学留学生教育センター(編)(1989)“New Situational Functional Japanese”

山本多喜司(1986)『異文化環境の適応に関する環境心理学的研究』

昭和60年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書

全国社会福祉協議会(1987)『入郷随俗 中国帰国者の日本社会への適応をめざして』

付 資料(アンケート用紙・アンケートの結果)

アンケートのお願い

学習者一人一人によって、日本語を学習する目的はいろいろあると思いますが、そのうちのかなり大きな目標の一つに「日本語を学ことによって日本人との人間関係をより円滑なものにする」ということがあると思います。

如何にあげたのは、我々の新しいテキスト「New Situational Functional Japanese」に出てくる様々な「人間関係」と、その人間関係における、ある目標行動を達成するための、言語を含む「行動能力」です。いくつかあげてある「行動能力」の中には、その「人間関係」を円滑にはこぶという目的から見て、かなり重要な能力もあればそれほど重要とは考えられない能力もあると考えられます。ある「人間関係」における「行動能力」の重要度が特定できるとすれば、その結果はその「人間関係」を扱っている課を指導する際の貴重な資料になると思います。

以上のような理由から、このアンケートを実施しようと思いますので、ご協力をお願いします。

Why do you learn Japanese ? There can be different reasons for each students. Among these, one of the most important reasons is to be able to communicate with Japanese in the Japanese community or society using the communicative means called “Nihon-go”.

In the text, “New Situational Functional Japanese”, two kinds of human-relations are treated. In each relation, there are some active purposes to be carried out by using “the active competences” involving linguistic competence, Japanese language.

These are as follows :

- [A] Impersonal Relationships.
 - a . The first meetings.
 - b . Relations with those who have a specific role.
- [B] Permanent Relationships.
 - c . Relating with friends.
 - d . Relationships between seniors and juniors.
 - e . Relationships with one's superiors.
 - f . Relating with neighbor's.

Some of them may be essential for accomplishing one's aims, and others are not so important.

The purpose of this examination is to know which active competence is useful for you all who learned Japanese by our new text.

So please answer the questionnaire.

〔記入の仕方〕

(1) それぞれの「人間関係」における「行動能力」に、あなたにとっての重要度の評価をつけてください。評価基準としては、その「人間関係」においてその「行動能力」が、不可欠と考えられる

ほど重要と思われる場合は〔5〕、あるにこしたことはないがそれほど重要とは思われない場合は〔1〕とし、重要度によって、〔5－1〕の連続したスケールで評価してください。

(2) さらに、その「人間関係」における「行動能力」のたて方自体、また、習慣やマナー価値観等が、あなたの国ないしあなたの文化でのやり方と異なっている場合は、どうそこで提示されている日本式のやり方と異なっているのか、について書いてください。

〔 How to fill an answer 〕

(1) Enter your evaluation in the (). The evaluation is as follows.

- When “the active competence” is important and indispensable for such relations, please check with point 5.
- When “the active competence” is not so important and indispensable for such relations, please check with point 1.
- And when your evaluation is neutral, please check 4 to 2 as from important to not so important.

(2) And when “the active competence” in each human-relations itself is different from your own country's, please write down what part of “the active competence” is different in the customs or manners, values and so on.

〔例 (Examples) 〕

a. 初対面の人との関係 (The first meeting)

(5) 簡単な自己紹介ができる (To be able to simply self-introduce oneself)

{ 日本でより聞いていけないことが多い 年齢・親のこと等 }

{ In my country, there are some topics not asked such as age, parents etc. }

(5) 物の場所を聞くことができる (To be able to ask about where things are)

{ 日本と同じ }

{ Same as in Japan. }

(4) わからないことを聞くことができる

(To be able to ask about what you don't know)

{ あまり初対面の人には聞かない }

{ In my country, we don't ask when first meeting a person. }

(5) 道を尋ねることができる (To be able to ask the way)

{ 日本と同じ }

{ Same as in Japan. }

(3) 間違い電話をかけたとき対処できる

(To be able to deal with wrong numbers)

| 電話をかけることがあまりない |

| In my country, we rarely telephone. |

[A] 行きずりの人間関係 (Impersonal Relationships)

a. 初対面の人との関係 (The first meeting)

() 簡単な自己紹介ができる To be able to simply self-introduce oneself.

はじめまして、～です。どうぞよろしくお願いします。

() 物の場所を聞くことができる To be able to ask about where things are.

あの、～はどこにあるんでしょうか。

() わからないことを聞くことができる

To be able to ask about what you don't know.

～って何ですか。

() 道を尋ねることができる To be able to ask the way.

～へ行きたいんですけど。

() 間違い電話をかけたとき対処できる To be able to deal with wrong numbers.

あ、どうもすみません、間違えました。

その他の「行動能力」(Other “active competences”)

() 時間を尋ねることができる To be able to ask the time.

() 電車・バスの乗り換えをすることができる To be able to change train or bus.

() 困ったときに助けを求めることができる (盗まれたり、落とし物をしたとき等)

To be able to ask for help when troubled (if goods have been stolen or lost).

b. ある組織に属している人との関係

(Relations with those who have a specific role)

- () 郵便局員 (郵便局) 「手紙を出しハガキを買うことができる」

With a postal clerk. (In a post office) To be able to send a letter or buy a post card.

これ、航空便をお願いします。62円切手 3 枚、ハガキ 5 枚ください。

- () ウェイトレス (レストラン) 「注文することができる」

With a waitress. (In a restaurant) To be able to order.

カレーとコーヒー、お願いします。

- () 事務員 (事務室) 「荷物を受け取ることができる」

With a clerk. (In an office) To be able to receive a parcel.

サインでもいいですか。これでいいですか。

- () 受付 (病院) 「予約することができる」

With a receptionist. (In a hospital) To be able to make an appointment.

おたずねしたいんですが。きょうの午後、やっていますか。

- () 受付 (病院) ・医者 (病院) 「診察を受けることができる」

With a receptionist and a doctor. (In a hospital) To be able to take a medical examination.

きのうの朝からのどが痛くて、下痢がひどいんです。

- () 店員 (デパート) 「買物することができる」

With a clerk. (In a department store) To be able to do shopping.

セーター、ありますか。色はいいんですけど、デザインがちょっと。

- () 店員 (本屋) 「本を注文することができる」

With a clerk. (In a book shop) To be able to order a book.

注文、お願いします。どのくらいかかりますか。

- () 職員 (バス会社) 「忘れ物をしたことを届けることができる」

With a clerk. (In a bus company) To be able to report lost property.

バスに忘れ物をしたんですが。～行きです。中に～が入っているんです。

- () 職員 (タクシー会社) 「タクシーを呼ぶことができる」

With a clerk. (In a taxi company) To be able to call a taxi.

大学の北の方まで2台、お願いします。松見公園の近くなんですけど。

その他の「行動能力」(Other “active competences”)

- () 職員 (ホテル) 「予約をして、旅行することができる」

With a clerk. (In a hotel) To be able to reserve a room and travel.

- () 職員 (役所) 「必要な手続きをすることができる」

With a clerk. (At a public office) To be able to carry out the necessary formalities.

- () 職員 (電気・水道等の会社)

「電気・水道・トイレなどの修理を頼むことができる」

With a clerk. (At the electric or water company) To be able to request the repair of electric appliance, water, or toilet and so on.

- () 不動産屋 「アパートを探し、契約・引っ越しなどができる」

With a real estate agent. To be able to choose an apartment to make contract with the landlord to move and so on.

- () 職員 (入国管理局) 「出入国、ビザの延長などに関する話をするすることができる」

With a clerk. (At the Immigration Service Division) To be able to talk with him about entry-leaving permit or extension of a visa and so on.

- () 職員 (職業安定所) 「仕事を探すことができる」

With a clerk. (At an employment security office) To be able to choose a job.

[B] 半恒久的な人間関係 (Permanent Relationships)

c. 友人との関係 (Relating with friends)

- () 突然出会ったとき、親しさを確認することができる

To be able to react warnly, when meeting suddenly.

やあ、～さん。どこ行くの。

- () わからないことがあったとき、気軽に尋ねることができる。

To be able to ask for help, when you have a question.

田中さん、井上病院の電話、わかる。

- () 相談したいことがあったとき、気軽に相談することができる。

To be able to readily ask for advice, when there is a problem.

今、何時。ねえ、タクシー呼ぼうか。

- () 趣味等について、情報を交換することができる。

To be able to talk about hobbies.

ねえ、何作ってんの。見せて。どうやって作るの。ふうん。

- () 何か頼まれたときに、相手との関係と自分の予定に基づいて、よりよい方向での解決ができる。

To be able to give help or to reject the request should you be asked to do something.

それ、急ぐんですか。実は～。

その他の「行動能力」(Other “active competences”)

- () パーティーに参加することができる。

To be able to take part in a party.

- () 日本あるいは自分の国について話すことができる。

To be able to speak about Japan or your own country.

- () ディスカッションをすることができる。

To be able to carry out a discussion.

c. 先輩（後輩）との関係 (Relationships between seniors and juniors)

(a) 後輩として (As a junior)

() 物品や情報を提供することができる。

To be able to offer information and goods.

～のことなんですけど。さしあげてもいいですよ。

() 物品や情報を提供してもらったとき、対処できる。

To be able to deal with the case of getting information or goods.

えっ、でもいいんですか。じゃ、遠慮なくいただきます。

() 相手の力量に応じて、相談をもちかけることができる。

To be able to ask questions that are within partner's capability to reply to.

今日はちょっと本のことで。～について何かありますか。

() 相談を受けたとき、相談にのることができる。

To be able to advise, when you are consulted.

どんなことでしょうか。これなんかはどうでしょう。

() (音楽会に誘う等) より緊密な関係をつくるための機会を提供することができる。

To be able to make a chance to be more friendly with someone

(e. g. inviting them to a concert).

あの、今度の日曜日なんですけど。実は音楽会があるので。

() より親密になる機会が提供されたときに、相手との人間関係をどう考えているかという判断に基づいて、対処することができる。

To be able to deal with the chance to be more friendly with someone, according to your judgement of the relationship with them.

音楽会って、何やるんですか。日曜日はちょっと。この次はぜひ。

() 相手に不幸があったとき、相手との関係に応じて、(お見舞いする等の) 対処をすることができる。

To be able to deal with the situation of when accidents happen to someone, depending on the relationship with them (e. g. visiting them).

どうですか、具合は。大変でしたね。お大事に。

- () 自分の緊急の度合い・相手との関係・相手の予定の具合等に応じて、依頼することができる。

To be able to request something of someone, depending on the degree of emergency, your relationship with them or their schedule.

今ちょっといいですか。実は、～で、ちょっと手伝っていただけたらと。

- () 相手との関係・自分の予定の具合等に応じて、依頼に対処することができる。

To be able to deal with a request from someone, depending on your relationship with them or your schedule.

それ、急ぐんですか。実は～。

- (b) 先輩として (As a senior)

- () 物品や情報を提供することができる。

To be able to offer information and goods.

～のことなんだけど。あげてもいいよ。

- () 物品や情報を提供してもらったとき、対処できる。

To be able to deal with the case of getting information or goods.

えっ、いいの。じゃ、遠慮なく。

- () 相手の力量に応じて、相談をもちかけることができる。

To be able to ask questions that are within partner's capability to reply to.

ちょっと本のことなんだけど。～について何か知らない。

- () 相談を受けたとき、相談にのることができる。

To be able to advise, when you are consulted.

どんなこと。これなんかはどう。

- () (音楽会に誘う等) より緊密な関係をつくるための機会を提供することができる。

To be able to make a chance to be more friendly with someone

(e. g. inviting them to a concert).

あの、今度の日曜日、ひま。実は音楽会があるんだけど。

- () より親密になる機会が提供されたときに、相手との人間関係をどう考えているかという判断に基づいて、対処することができる。

To be able to deal with the chance to be more friendly with someone, according to your judgement of the relationship with them.

音楽会って、何やるの。日曜日はちょっとね。この次はぜひ頼むよ。

- () 相手に不幸があったとき、相手との関係に応じて、(お見舞いする等の) 対処をすることができる。

To be able to deal with the situation of when accidents happen to someone, depending on the relationship with them (e. g. visiting them).

どうしたの、具合はどう。大変だったね。お大事に。

- () 自分の緊急の度合い・相手との関係・相手の予定の具合等に応じて、依頼することができる。

To be able to request something of someone, depending on the degree of emergency, your relationship with them or their schedule.

今ちょっといい。実は、～で、ちょっと手伝ってもらえないかな。

- () 相手との関係・自分の予定の具合等に応じて、依頼に対処することができる。

To be able to deal with a request from someone, depending on your relationship with them or your schedule.

それ、急ぐの。実は～。わるいな。

e. (先生・先生の奥さん等) 目上の人との関係 (Relationship with one's superiors)

- () 目上の人に丁寧に依頼をすることができる。

To be able to make a request to your superior politely.

- () 目上の人に電話をかけ、面会のアポイントメントをとることができる。

To be able to call up your superior, and to make an appointment.

- () 失礼なく目上の人の家を訪問することができる。

To be able visit your superior's house without being rude.

f. 近所の人との関係 (Relating with neighbor's)

- () 近所の人に（あとあと関係がこじれないような方法で）苦情を言うことができる。

To be able to make a complaint to your neighbors without straining the relationships.

すみませんが、もう少し静かにしてもらえませんか。すみませんでした。

- () 大家さんなり近所の人から（ゴミの出し方等について）注意されたときに、感じよく対処できる。

To be able to deal with situations such as when your landlord, landlady or your neighbors give you advice on how to dump rubbish and so on.

どうも、ご迷惑をかけてすみませんでした。

その他、こんな「人間関係」におけるこんな「行動能力」が欠けている、こんな「人間関係」においてこんな「トラブル」があった等の意見があれば、書いてください。

ご協力、どうもありがとうございました。

国籍：	年齢： 歳	男・女	既婚・未婚
母語：	学習言語：		
最終学歴：	専攻領域：		
日本語学習歴： 自国で 年 か月 ・ 日本で 年 か月			

アンケートの結果

〔A〕 行きずりの人間関係

a. 初対面の人との関係

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計	平均
ア	4	5	5	5	5	4	5	5	5	5	48	4.8
イ	4	4	5	5	5	5	5	5	5	4	47	4.7
ウ	4	4	4	5	5	4	5	5	5	5	46	4.6
エ	5	4	5	5	4	5	5	5	5	5	48	4.8
オ	1	4	5	4	3	5	4	5	5	4	40	4.0
カ	2	4	5	5	3	5	4	3	5	3	39	3.9
キ	3	3	4	5	5	5	4	5	5	3	42	4.2
ク	5	4	5	5	4	5	4	5	5	5	47	4.7
合計	28	32	38	39	34	38	36	38	40	34	357	

b. ある組織に属している人との関係

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計	平均
ア	4	5	5	4	3	5	4	5	5	5	45	4.5
イ	2	5	5	4	3	5	3	5	5	3	40	4.0
ウ	4	5	5	3	3	5	3	5	5	3	41	4.1
エ	3	4	4	4	4	5	4	5	5	5	43	4.3
オ	5	4	4	4	4	5	4	5	5	5	45	4.5
カ	2	4	5	4	2	4	2	5	5	5	38	3.8
キ	2	5	4	4	3	5	3	5	5	5	41	4.1
ク	3	4	3	2	4	5	3	5	5	5	39	3.9
ケ	1	3	5	4	4	3	4	5	5	5	39	3.9
コ	2	5	5	3	3	5	3	5	4	4	39	3.9
サ	3	4	4	3	3	5	4	5	4	5	40	4.0
シ	3	3	2	3	5	5	4	5	5	5	40	4.0
ス	2	4	4	5	4	5	5	5	5	4	43	4.3
セ	4	3	4	4	3	5	5	5	5	5	43	4.3
ソ	3	3	3	3	4	5	3	5	5	4	38	3.8
合計	43	61	62	54	52	72	54	75	73	68	614	

〔B〕 半恒久的な人間関係

c. 友人との関係

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計	平均
ア	1	5	3	4	3	5	5	5	5	5	41	4.1
イ	4	5	5	5	3	5	5	5	5	5	47	4.7
ウ	3	4	4	5	4	3	5	5	5	5	43	4.3
エ	1	5	5	5	2	5	3	5	5	3	39	3.9
オ	4	5	-	4	3	5	4	5	5	5	40	4.4
カ	3	5	4	4	3	5	4	5	5	3	41	4.1
キ	3	5	3	5	3	5	5	5	5	5	44	4.4
ク	4	5	3	5	4	5	5	5	5	5	46	4.6
合計	23	39	27	37	25	38	36	40	40	36	357	

d. 先輩（後輩）との関係

（a）後輩として

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計	平均
ア	2	5	3	4	4	5	3	5	5	5	41	4.1
イ	2	4	4	4	3	5	3	5	5	5	40	4.7
ウ	1	5	4	5	3	5	5	5	5	5	43	4.0
エ	2	5	4	4	4	5	3	5	5	5	42	4.3
オ	3	4	3	4	3	5	5	5	5	5	42	4.2
カ	3	5	3	4	2	5	5	5	5	5	42	4.2
キ	4	5	5	3	2	5	4	5	5	5	43	4.2
ク	3	5	4	4	3	5	5	5	5	5	44	4.3
ケ	3	5	4	4	4	5	5	5	5	5	45	4.5
合計	23	43	34	36	28	45	38	45	45	45	382	

(b) 先輩として

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計	平均
ア	2	4	4	4	4	5	4	5	5	5	41	4.1
イ	2	4	4	3	3	5	4	5	5	5	40	4.7
ウ	2	5	4	4	3	5	5	5	5	5	43	4.0
エ	3	5	5	4	3	5	4	5	5	5	42	4.3
オ	3	5	3	4	3	5	4	5	5	5	42	4.2
カ	3	5	3	3	2	5	4	5	5	5	42	4.2
キ	4	5	5	3	3	5	5	5	5	5	43	4.2
ク	4	5	4	3	4	5	5	5	5	5	44	4.3
ケ	3	5	4	3	3	5	5	5	5	5	45	4.5
合計	26	43	36	31	28	45	38	45	45	45	382	

e. (先生・先生の奥さん等) 目上の人との関係

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計	平均
ア	2	5	3	4	5	5	5	5	5	5	41	4.1
イ	2	4	1	4	5	5	5	5	5	5	40	4.7
ウ	2	4	2	3	5	5	5	5	5	5	43	4.0
合計	6	13	6	11	15	15	15	15	15	15	126	

f. 近所の人との関係

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	合計	平均
ア	2	4	3	3	4	5	5	5	5	5	41	4.1
イ	2	3	3	3	3	5	5	5	5	5	39	3.9
合計	4	7	6	6	7	10	10	10	10	10	80	